

第4回：大庭地域の魅力と穴場スポット

今までご紹介したことをまとめて、改めて大庭の魅力を考えてみたいと思います。

当地域の魅力は、まず、先史時代から近代までの各時代の遺跡・史跡があり、うちいくつかは歴史を画する証として、“移り変わり”を感じさせてくれることです。

律令時代には歴史史料に名を残す**大庭郷、大庭神社**があります。平安時代の末からは伊勢神宮の**荘園・大庭御厨の本郷**として、戦国時代には**大庭城**が築かれ**舟地藏伝説**という悲劇も残しました。江戸時代から昭和前半までは、**大庭千石**と呼ばれた純農村でしたが、その後**ライフタウン**という先進的な郊外住宅地になり今に至っています。

これほどの連続した歴史変化を経験し、かつ各時代の遺跡・史跡・伝承を持つ地域は珍しいのではないのでしょうか。

また歴史や伝承に由来するとされる地名が多いことも特徴です。

普通地名は、70～80%が地形や自然に由来すると云われていますが、ここ大庭は逆です。その中でも大庭城関係の地名が目立ちます。このことも、大庭が歴史・伝承が豊という証だと思います。

続いて、私の考える**穴場スポット**をご紹介します。

私のお勧めは、大庭地域の中央南寄りの**台谷(だいやと)地区**です。ライフタウンに近接しているながら、市街化調整区域に指定されているため、畑、農道、自然が豊富です。そしてその中に遺跡や史跡が点在しています。古代大庭神社の可能性ありとされる**熊野神社**、舟地藏の前身と云われている**素朴な石仏**、ゴルフ場芙蓉カントリークラブ内にある独特な雰囲気**の台谷神明社**、今や珍しい自然林の中にある**台谷稻荷社**など、ゆっくり歩いて見て回るとほっとした気持ちになれます。

もう一つのお勧めは、**引地川親水公園**です。まだ開園して20年そこらですが、もはや地域に溶け込み風格すら感じます。桜の木も成長して今や藤沢随一の花見の場所になりました。

もし訪れられる時は、河川改修事業と一体して整備された親水護岸や大庭遊水地との間の越流堤もご確認してください。

今後の展望や目標ですが、我々藤沢地名の会が出来ることは、大庭地区の変容を見守り、記録しそれを伝えていくことだと思います。その中には、現在



台谷稲荷社

は謎となっていることが解明されることも期待しています。

例えば、大庭城址が本格的に発掘されて、戦国時代の相模国の中枢の城であることが伝承でなく、歴史学として証明されること。大庭神社の由緒が解明され、今は2つある論社が決着すること。江戸時代まで引地川は、柏山稻荷神社近くで堰き止められ流れは西の有藤地区から茅ヶ崎市域に流れ込んでいたという伝承の真偽が解明されること。江戸時代には、大庭村内は、実際は大庭本村と大庭入村の2つがあったとされますが、その詳細が分かることなど。これらは夢に近い願望かもしれませんが、これだけ謎が多い云うことは、逆に歴史の探求が進んでいる証拠かもしれません。



桜満開の引地川親水公園